

宮崎県 高鍋農業高校

園芸科学科／畜産科学科
食品科学科／フードビジネス科

寮生活で育まれる 命と向き合う仕事の精神

創立113年目、藩校の伝統を受け継ぎ、あまたの人材を輩出してきた宮崎県 高鍋農業高校はかつての全寮制を引き継ぎ、県の農業や畜産業を担う人材を育成しています。

園芸
科学科



左上／茶や野菜、花き、果樹の栽培や販売のスペシャリストを育てる。右上／宮崎県のフードビジネス構想と連動する形で新設された学科。地域の農産物で郷土料理や菓子などを製造するほか、直販所で接遇も学ぶ。右／パン、ジャム、ハムなどの製造や食品の成分分析、衛生管理を学び、企業と共同開発も行う。写真は試薬の調整をしている様子。

フード
ビジネス科



食品
科学科



農業クラブ「肉用牛経営研究班」の15人が力を合わせて育てた未経産の雌牛「なつひめ1号」は地域の共進会でグランドチャンピオンに。



名君が創設した藩校の 伝統を今に受け継ぐ

J・F・ケネディが尊敬する政治家として名前をあげた米沢藩主上杉鷹山。その兄であり、大規模な開墾や木炭製造などの事業を行ったことで、名君の誉れ高い高鍋藩主秋月種茂が創設した藩校の明倫堂は寄宿制を採り、身分に関わらず学ぶことができました。

この明倫堂の伝統を受け継ぐのが、高鍋藩の城跡に建つ宮崎県高鍋農業高校です。

1903年に自営者養成農業高校の全国第一号指定校となつて以来、学校関係者は実習用地の確保に努め、日向灘に面する丘陵に広がる校地は今や53万㎡を超えます。ここで生産される農産物や加工食品は約100品目、販売収益は年間8000万円ほどになり、県の特別会計制度で運営され、施設・設備の充実が図られています。高次連携も積極的に進めており、宮崎県農業大学校での実習などを実施しています。昨年、11名が同大学校に進学しました。同校の特徴の一つが学生寮の伝統を守り続けていることです。湯地誠校長は「冬場のハウスの暖房管理、家畜の分娩など命と向き合う仕事を覚えるうえで、寮で生活することは大きな意味があります」と強調します。

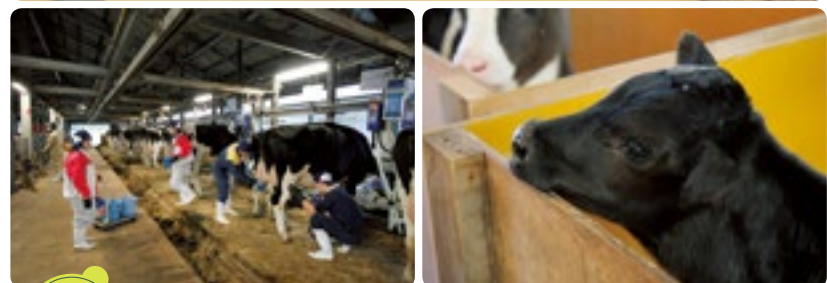
「為せよ、屈するなかれ」 不屈の精神がもたらす栄冠

園芸科学科と畜産科学科の生徒は全員3年間の寮生活を送るほか、他科の生徒も希望すれば入寮でき、現在、生徒411人の約半数が寮生活を送っています。

全国から激励が寄せられ、山形県米沢市からは見事な子牛が届きました。指導役を買って出たのは、口蹄疫で畜産をやめた地域の生産者でした。温かい支援に応えようと、防疫体制を徹底的に強化、牧場再建に取り組んだ生徒たちが手塩にかけた牛は昨年、8年ぶりに復活した児湯郡市育成牛共進会でグランドチャンピオンの栄冠に輝きました。

今年9月の第11回全国和牛能力共進会で新設される高校の部への

右／11月に開催されたイベント「農産物即売会」。左／フードビジネス科では、生徒が丹精込めて育てた野菜など30種以上の商品を販売し、完売。



畜産
科学科

上／乳牛や和牛、豚の飼育管理技術を習得する。酪農では40頭のホルスタイン種を飼育。下／カウコンフォート（乳牛の快適性）に気を配り、乳生産の向上を図っている。



尾鈴山の麓、高鍋城址に建つ高鍋農業高校の校舎。大手門跡や校門前の水堀が今も残る。



高知県西部唯一の農業高校である幡多農業高校。約10年前から始まった活動が「孫100人」

「孫100人の農援隊」で地元支援

【高知県】 幡多農業高校

の農援隊」です。その名の通り、「孫のように手伝う」ことをコンセプトに、きゅうりの植え付けや文旦の交配作業など、農家の方が猫の手も借りた忙しい時期に、生徒たちが農作業を手伝います。農家の方にとって大きな助けになるだけでなく、生徒たちにとっても地元農家と触れ合いながら現場を学ぶことができるよい機会になっています。

播磨農業高校は、地元企業や兵庫県立大学など、地域のさまざまな団体と協力しながら課題研究の授業を行う高校です。昨年から、地元だけでなく沖縄県内の4つの高校とも共同研究を開始。お互いの県を調査し合い、地域の課題を解決するビジネスプランを作成しました。

アは、日本政策金融公庫が主催する「全国高校生ビジネスプラン・グランプリ」で見事ベスト10に選ばれ、東京工科大学の協力で実際にアプリが制作される予定となっています。



「食育アプリ」を共同企画。コンテストでベスト10入り

【兵庫県】 播磨農業高校



中標津農業高校では、生徒が先生となり、地元の子どもたちに農畜産のことを教える「食育学校」を開催しています。対象は幼稚園児から小中学生。幼稚園児にはきゅうりの苗植えやいも掘り、小学生には年間を通して畑づくりの指導。中学生には、食肉の生産工程を教える授業やエジシカ肉の加工体験などを行っています。

農業高校が地域の食育を担う。高校生が子どもたちの先生に

【北海道】 中標津農業高校



北海道最大の農業高校で「フケジョ」が活躍中！

農業系女子

【北海道】 岩見沢農業高校

北海道中央部に位置する岩見沢市にある岩見沢農業高校は、7つの学科を持ち、800人以上が通う道内最大規模の農業高校です。同校では年々女子生徒の数が増加し、現在は全校生徒の半数近い340人です。昨年10月、札幌市の商業施設にて行われた特別展示は、企画内容から当日の客対応まで、女子生徒が中心となって成功させた一例です。出展した生活科学科は瓶の中で花を咲かせる「インビトロフラワー」を販売。地元の方も初めて見る花の形に興味津々の様子でした。農業クラブの技術競技大会でも優秀な成績を残している女子生徒たち。卒業後も北海道の農業界を引っ張っていく存在として、活躍が期待されています。



農業界のグローバルリーダーを育成

【佐賀県】 佐賀農業高校

昨年4月より、文部科学省が取り組むスーパーグローバルハイスクール（SGH）に農業高校として初めて指定を受けた佐賀農業高校。国際的な視点を持ち、日本の農業分野を引っ張っていくグローバルリーダーを育成するためのカリキュラムが実施されています。主軸となるのは、3年間一貫して取り組んでいく課題研究です。1年次には佐賀県の農業を調べ、2年次に佐賀県と近い地形を持つベトナムでの研修、3年次に共通点と相違点を研究し発表を行います。県内の大学や県の農林水産部、JETRO（日本貿易振興機構）なども講師として協力し、生徒たちも興味津々で取り組んでいます。将来自ら輸出を行う農業者や、輸出をサポートする人材の育成が期待されています。



「岩手県」遠野緑峰高校 地域農家と共に伝統野菜を復活、商品化へ



岩手県遠野市の伝統野菜「遠野早池峰菜」。遠野緑峰高校は、平成18年からこの伝統野菜の栽培普及に取り組んできました。当初は地元でも栽培農家はほとんどありませんでした。地域のPRに役立てたいと考えた生徒たちが自ら栽培マニュアルをつくり、栽培してくれる農家を探すなど普及に努めた結果、生産組合が作られることに。「伝統野菜研究会」も発足しました。生産量が増え、知名度も上がってきた最近では、生徒たちは販路拡大と商品化に力を入れています。東京での商談会に参加したり、地元のフレンチレストランと協力してメニュー開発を行ったり、自らスーヴを作ったイベントで振るまったりと、6次産業化を実践的に学ぶ機会となっています。

学校と地元農家に学ぶデュアルシステム

【栃木県】 矢板高校



矢板高校の農業経営科では、3年次にデュアルシステムを導入。学校での勉強と並行して、地元の農家や関係団体で年間を通して実習を行っています。生徒は現場の仕事を学ぶだけでなく、経営者としての視点や知識に触れてよい刺激を受けています。受け入れ先の方々は、開業する場合の初期経費や就職

先の候補を教えてくれるなど、生徒たちが卒業後の進路を考えるうえで大きな役割を担っています。将来の夢を見つけたという声もあり、非農家の生徒が増えるなか、この活動の重要性はますます高まっています。

規格外海苔を鶏の飼料に。地域資源活用が成果を生む！

【熊本県】 熊本農業高校



卒業生の海苔生産者から、廃棄せざるを得ない海苔が大量にあるとの連絡をきっかけに、規

格外海苔の飼料化プロジェクトを立ち上げた熊本農業高校。県内の漁業関連団体との共同研究により、シユレッターで細かく粉碎し、飼料に3%添加する方法を確立。海苔を与えると、EPAやカロテンなどの栄養価もアップすることが分かりました。この卵は「海苔ノリたまご♥黄身に夢中♥」と名付けられ、昨年1月に商標登録を完了。2月には、第4回「食品産業もつたいない大賞」で、食料産業局長賞に選ばれました。同校で販売するほか、県内養鶏農家にも飼料を広く活用してもらいたいと考えています。

農業を学ぶアメリカの学生と国際交流

アメリカの農業クラブ連盟「FFA」の学生たちが、1月22日～2月1日の日程で来日。東京都瑞穂農芸高校で行われた歓迎交流会で都内の農業高校生たちと国際交流を図りました。また、農業視察、全農東海支店の工場見学、愛知県内でのホームステイなどを実施。農業という共通の夢を持つ同年代と触れ合う機会は、双方の学生にとって大きな刺激になりました。



歓迎交流会では、餅つきや弓道体験を行った。